



## モデリング

群馬県総合教育センター 所長 野村 晃男

「子どもは親の背中を見て育つ」と、よく言われます。アメリカの心理学者であるバンデューラ氏も、同様のことを指摘しています。「子どもは命じられたり教えられたりすることよりも、周りの誰かをお手本に真似をすることによって学んでいく」ということです。心理学ではこれを「モデリング」と言うそうです。

さて、私には2人の娘がおります。親に似て、勉強はできませんでしたが、誰が教えたわけでもなく、小学生の頃から毎朝、仏壇にお水とお茶をあげ、手を合わせていました。私の両親もやっていたし、私もやっていたので、それを真似たのでしょう。

その娘が、6月初めに、男の子を出産し、実家である我が家に帰ってきています。私にとっては「初孫」です。何年も前から白髪が増えてしまい、外見は「おじいさん」でしたが、ついに「本物のおじいさん」になってしまいました。

ミルクを飲んで、おしっこをして、うんちをして、寝ることを仕事にしている孫ですが、時折、引きつったような笑ったような顔をして、とってもかわいいです。この子は大きくなったらどんな大人になるのだろうか。その頃には、どんな社会になっているのだろうか。想いをめぐらせながら、寝顔を見ています。

「性相近し、習い相遠し」という言葉のとおり、人は生まれたときは同じような性質をもっていますが、その後の習慣や教育などの違いによって、人間としての差が大きくなるものです。また、「三つ子の魂百まで」という格言のように、3歳までの教育がとても重要です。幼児教育が、人間形成に大きく影響していると痛感しています。

今年3月に、幼稚園教育要領が告示されました。教育要領の改訂にあたり、社会状況の変化による幼児の生活体験不足から、基本的な技能等が身に付いていなかったり、幼児期の教育と小学校教育の接続が十分ではなかったりするなどの課題も指摘されていました。そこで、新しい教育要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10項目の資質・能力が明示されました。どれも大切で必要な資質であり、能力です。

これらを身に付けるには、「モデリング」が必要です。子どもにとって一番身近なモデルといえば、一緒に生活をしている父親や母親などの大人たちです。親の方が意識していなくても、子どもは大人の姿から、仕草や行動、ものの考え方などを吸収しているのです。私も、孫のモデルになれるよう、今までの言動を振り返り、反省している毎日です。



ご存じですか？

# 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

とは・・・

平成29年3月に告示された幼稚園教育要領の総則に新設された項目で、**教師が指導を行う際に考慮するもの**です。また、各文末の「なる」は**長期的視野で幼児の育ちを捉えることを意味**しています。保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領も共通です。次期小学校学習指導要領には、この「姿を踏まえた指導を工夫すること」で「**児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能になるようにすること**」と明記されました。



同じ視点を持って教育を滑らかに接続し、子どもたちの豊かな成長につなげたいですね。

<p>(1) 健康な心と体</p> <p>幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p> 	<p>(2) 自立心</p> <p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で 行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p>
<p>(3) 協同性</p> <p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。</p> 	<p>(4) 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。</p>
<p>(5) 社会生活との関わり</p> <p>家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。</p>	<p>(6) 思考力の芽生え</p> <p>身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</p> 
<p>(7) 自然とのかかわり・生命尊重</p> <p>自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。</p>	<p>(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</p> 
<p>(9) 言葉による伝え合い</p> <p>先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</p>	<p>(10) 豊かな感性と表現</p> <p>心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</p>

# 家庭で楽しく運動遊び!



平成24年3月に文部科学省から出された幼児期運動指針では、「幼児は様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切」である、と示されており、この中で「園だけではなく、家庭や地域とも協力」することの重要性にも触れられています。そこで、園とご家庭が協力して運動遊びに取り組み、子どもたちの健やかな成長を目指すための資料を作成しました。

## 子どもの体力・運動能力の現状

親世代  
…30年前の幼児

子世代  
…現在の幼児

### 比較

ほとんどの運動能力面で優る

身長や体重などの体格面で優る

※現代の子どもたちは、自分の身体を思うように操作する能力が低いと指摘されています。  
(例: まっすぐに走れない、スキップができないなど)

	握力(kg)	50m走(秒)	ソフトボール投げ(m)
親世代	20.79	8.88	27.25
子世代	20.0	8.95	21.96

H27とS60の11歳男女平均で比較 文部科学省 体力・運動能力調査

## 運動あそびをすることで

近年の脳科学や幼児教育の研究では、運動遊びによって心身に以下のような効果があることが明らかになっています。

心

- ・有能感や意欲
- ・コミュニケーション能力
- ・協調性や適応力
- ・最後まで頑張り抜く力 等の育成

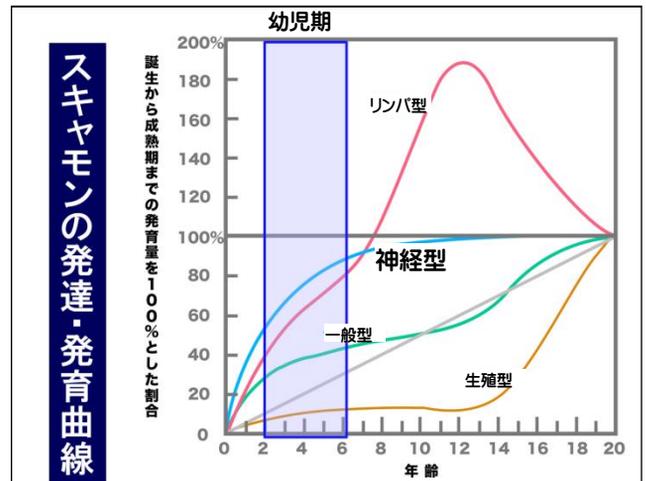
体

- ・バランスのよい丈夫な身体作り
- ・体力や持久力の向上
- ・けがや事故の未然防止
- ・体をコントロールする力の向上 など

## 幼児期における運動の必要性

「スキヤモンの発達・発育曲線(1928年)」  
運動神経に関係する神経型の発達は、6歳までに成人の90%まで達する。

**6歳までに、遊びを通して、様々な動きを経験することが重要!**



このように「幼児期における運動遊び」は大変重要です。特に園では経験できない「家庭ならではの運動遊び」には、子どもたちが目を輝かす魅力がたくさんあります。ぜひ、「家庭ならではの運動遊び」に取り組んでみてください。キーワードは、

**親子コミュニケーション**

と

**お手伝い**

# 家庭での運動遊び 4つのポイント



幼児期における家庭での運動遊びのポイントはいくつかありますが、特に重要なものは以下の4つです。家庭での運動遊びを実践するにあたり、この4つのポイントを意識することで、親子の愛情や強い絆が生まれ、子どもたちの心の安定を深めることにもつながります。

## ① 達成感、満足感を持たせましょう



ほめることが重要！ ← 少し大げさなくらいで

- ・上手にできたね
- ・最後まで頑張ったね
- ・できるようになったね。 など

ほめられた

うれしいな

やってよかったな

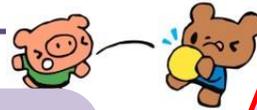
自分もできるんだ

それは得意だよ

またやってみよう

違うことにも挑戦だ

## ② 多くの動きを経験させましょう



様々な遊びやお手伝い等

多くの種類の動きを経験する、様々な器官を使う

- ・走る・跳ぶ・回る・よける・くぐる・はう・蹴る・こぐ・投げる
- ・腕を回す・つかむ・つまむ、体をひねる・両手を挙げる

児童期以降の運動機能の基礎を形成する上でとても重要！

## ③ 親も本気で楽しみましょう

- ・育児
- ・仕事
- ・家事 等々

疲れ

けれども...



子どもとふれあいながら、一緒に本気で遊んでみましょう！

- ・汗をかいてストレス解消！
- ・子どもの成長を実感！
- ・良好な親子関係！
- ・子どもは大喜び！！

## ④ 日頃からの環境作りを心がけましょう

パパが子どもの頃好きだった運動はね...

好きなスポーツ選手はね...

ママはテニスをやっていたのよ



運動を話題にした家族の会話

ハイキング等の行事に、家族で参加するのも楽しいですね。

